



渋谷でマナブ



目次

巻頭言 「謎のクラスメイト渋谷まなびー」 東京渋谷学習センター所長 山室恭子	2
コラム 「東京下町を歩く」 牧野文夫	3
「デカメロンの丘で考える「パッシオーネ」―大江健三郎氏を悼む」 村松真理子	4
2023年度 放送大学連携講座スケジュール	5
2022年度 放送大学連携講座開催しました	6



Information

以下について、東京渋谷学習センターのwebサイトよりご確認ください。

- 東京渋谷学習センタースケジュール
- 証明書・学生証の発行
- 単位認定試験について
- 2023年度第1学期面接授業科目の追加登録

謎のクラスメイト渋谷まなぴー

東京渋谷学習センター 所長 山室恭子



やあ！まなぴー殿。忙しそうじゃのう。こないだ、電気瓦版^{※1}でお見かけしたぞ。講義に参加しておるとか。



暮らす冥土？？

やっほー、お侍さん。うん、新しいお仕事、始めたんだ。名づけて「謎のクラスメイト渋谷まなぴー」、カッコいいでしょ。



あ〜、ほら渋谷の講義って、みんな「ずうむ」^{※2}っていう魔法の装置を使ってね。覗きからくりの進化版で、日本中の学生さんと同時につながれるんだ。



そいつあ、すごいな。

でもね、「ずうむ」だと、寺子屋で直接お師匠さんに習うよりかは、やっぱり先生が遠くに思えて、なかなか質問しにくいんだ。



まあ、日本人は遠慮と忖度のカタマリじゃからのう。

そこに遠慮せずにぼんぼん質問する仲間がいたら、他のみんなも質問しやすくなるよね。



ふむふむ、口火を切るお役目ってことじゃな。

そうだけど、ただの口火じゃなくてね。事前に先生と打ち合わせで、ここは理解のカンドコロだから、まなぴー質問で流れを止めて、みんながゆっくり消化できるように、とか作戦も立てるんだよ。



ほほう、火加減の調節もするわけか。なかなか高度じゃな。しかし、みなは鳩語を解さぬじゃろう。

そこは、だいじょうぶなんだ。ずうむに「おしゃべり箱^{※3}」が付いててね。それ使うと、みんなには人語のセリフに変換されて伝わるんだ。



おもしろそうじゃな。

あとね、お師匠さんから、いろんな宝物がもらえるんだ。〈巡回伝書鳩の術^{※4}〉を伝授してもらって空飛ぶ飛脚のお仕事が効率的になったし、最適な伴侶が見つかる魔法の杖^{※5}ももらったよ。舶来の学問には、びっくりな発想がいっぱい詰まってるんだ。



なあるほど。鎖国^{※6}しとる場合じゃないかもしれんのう。拙者も、そのずうむ寺子屋とやら、覗いてみるかな。

※1 テレビ番組「放送大学の新たな姿～教学Vision2027～ 後編」2023年1月放送

※2 Zoom

※3 チャット

※4 「最適化アルゴリズムのエッセンス」紹介動画 <https://youtu.be/icmP5hUTk9Y>

※5 「非協力ゲーム理論」紹介動画 <https://youtu.be/spblNqursE4>

※6 最近の学界では、全く外来文化の流入が遮断されていたわけではなく、向学の士たちによって積極的に異国の学問が学ばれていたという説が有力である。江戸時代人を見習おう。

東京下町を歩く

牧野文夫

元客員教授（法政大学名誉教授）



私の専門は経済学でゼミは基本的に教室内で実施している。しかし時には気分転換も兼ねてキャンパス外に出て「実習」を行う。学生には東京の歴史を感じさせる複数のコースを提示し多数決で選ばせている。以下にこれまで数回体験した中で、もっとも頻度が高かったルートを紹介する。興味を覚えた方には体験してもらえれば有り難い。

出発点はJR総武線両国駅西口である。改札を出て左に向い、3分ほど歩くと京葉道路向側の回向院に着く。江戸勧進相撲の発祥地で、大相撲国技館が両国に立地する由縁である。敷地内には鼠小僧次郎吉の墓があり、多くの受験生が合格祈願で参詣するようだ。

回向院を出て吉良上野介屋敷跡へ向かう（5分もかからない）。現在は100平米にも満たない狭小地で、赤穂出身の武装テロ集団が「お礼参り」で襲撃して刎ねた老人の首を洗ったとされている井戸跡のみが残されている。さらに付近の両国公園内には勝海舟生誕の碑が建てられており、江戸から明治初めまでの歴史の一端を味わえる。再び京葉道路を横断すると、芥川龍之介生育の碑が道路沿いにある。

両国駅西口へ戻り、国技館前を通過して安田庭園に入る。ここは安田財閥の創立者である安田善次郎一家往事の自宅敷地跡で、安田善次郎が明治期に田安德川家の土地を中心に隣地の旧大名敷地を次々に買い増したものである（総面積は1万7千坪）。後に東京都へ寄付されて現在は一般開放されている。ちなみに安田が田安邸を購入したとき

の秀逸な落首を紹介しよう。「何事もひっくり返る世の中や、田安の屋敷安田めが買う」（矢野文雄『安田善次郎伝』）。

園内を横断して入場とは反対側の門から出ると目の前に東京都慰霊堂（横綱公園）が現れる。関東大震災と東京大空襲の被害者を慰霊するための施設で公園内には震災の折、流言飛語によって犠牲となった朝鮮人慰霊碑もある。ゼミ生の中でも外国人留学生は慰霊施設内の絵や説明を熱心に見入っているが、日本人学生の多くはそれらにはほとんど無関心で、公園内の児童用遊具で戯れている体たらくである。悲しいかな現在の日本が凋落する様を目の当たりにすることになる。

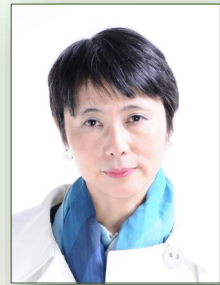
ここから隅田川縁の遊歩道を辿り吾妻橋へ向かう。上流の浅草へ向かって左（台東区）側を辿った方が、独特のフォルムで有名なビール会社のオブジェやスカイツリーの眺めが良い。橋に到着すれば雷門はすぐそばである。ゼミのツアーは浅草寺を参詣して現地解散となるが、時間に余裕があれば、吾妻橋を渡り再び墨田区側に出て、牛嶋神社や三井家ゆかりの三囲神社などを見学するもよし、またスカイツリーに足を伸ばすもよしである。

さらに灯ともし頃になり、財布にも余裕があれば、吾妻橋のたもとから屋形船に乗り込んで船遊びに興ずるのも趣があろう。リバーサイドに屹立する高層の不夜城を眺めながら江戸前料理を味わう、令和版江戸お大尽の気分を味わってみては如何かな。

デカメロンの丘で考える 「パッショオーネ」—大江健三郎氏を悼む

村松真理子

客員教授（東京大学大学院教授）



シチリアの地で作家は迷いなく、答えました。「パッショオーネです」。

地中海最大の島であるシチリア島の中心地、パレルモ近くにモンデッロという美しい海辺の保養地があります。そこで創設され、その地名を冠する「モンデッロ文学賞」は、1980年代、90年代、世界中の文学者たちの間で、知人ぞ知る、ものでした。賞金の額のためでも、多分、シチリア島のエキゾチックな魅力のためでもなく、「先見性」によって。イタリア語の作家だけではなく、世界の文学者に与えられる国際賞の受賞者から不思議なほどたくさん作家が、その後数年以内にノーベル賞を受賞していたのです。1993年モンデッロ賞受賞につづいて翌年ノーベル賞を受賞したのが、日本の作家、大江健三郎氏でした。当時すでにイタリア語にされていた『飼育』等初期作品集と『万延元年のフットボール』のN・スパダヴェッキ氏の翻訳は訳者解題とあわせ、緊張感のある文体のすばらしいものでした。

モンデッロでの授賞式・記者会見の前日は、古代遺跡の美しいエーリチェを訪れるエクスカージョン・プログラムでしたが、バスでの移動中にも取材が入っていました。イタリアの日刊紙に掲載予定のインタビューは、本人も小説を書いているという若い女性作家によるもの。その第一問が、「文学とは何か、一つの言葉を選ぶとしたら」というものだったのです。「パッショオーネ」は英語のパッション、「情熱」ですが、バッハの「マタイ受難曲（パッショオーネ）」で使われているような場合は、「受難」ですね、その両方の意味で私はこの言葉を選ぶのです。そう「パッショオーネ」をどう捉えるか、作家が日本語で説明するのを、通訳として同伴していた私が訳し、二人の文学者をつなぎました。いや、質問は「人生」を表す言葉だったかもしれない。。

授賞式の日、大江氏は通訳しやすいようにと事前にホテルの便箋に受賞挨拶を書いて私に渡してくれました。ダンテ『神曲』を読むことを魂のライフワークとしている主人公の登場する『懐かしい年への手紙』をすでに発表し、フランス語訳も出版していた大江氏は、挨拶に、『神曲』で、登場人物の「私」が師

ウエルギリウスに、地獄で汚れた顔を草の露で清め、腰にイグサの穂を巻いてもらうという煉獄の島のイメージを引用します。

そして、シチリアの美しい海辺で自らが作家として洗い清められ、新たな出発をすることが叶うと、感謝を述べていました。その場でさっとまとめられた見事なテキストと、イタリア文学の金字塔ダンテの咄嗟でありながら正確な引用。若い研究者・翻訳者の私は非常に感銘を受けました。

ところが、主催者側と放映を担当していたイタリア国営放送の手違いで、その挨拶の場はとばされ、大江氏の受賞は客席の拍手で終わってしまいました。作家の手書きテキストも私の翻訳原稿も、声に出されることなく幻の挨拶となったのです。抗議しようする私の怒りとなだめる作家ご本人…

大江氏は、ノーベル賞の前も後も、社会的な発信と行動の「アンガージュマン」を晩年まで続けながら、歴史を生きる個人の尊厳と繋がりとは何かという問いを追求し、それを表現する新しい日本語文学を構築しようしました。その文体はときに「読みにくい」と批判されながら、話し言葉と思想や概念を融合させる試みでした。どんな読者にむかって書いているのか、との問いに作家は答えました。「読者を念頭に置いて書くわけではありません」

大江氏が言葉を紡ぎ出す瞬間に居合わせ、その場でイタリア語に移し替える経験をしたとき、私はまさに文学の「情熱」と喜びと希望を実感し、心が躍りました。文学を勉強してよかった、これからも文学をなんとか自分の生業としよう！と。

今、滞在中のデカメロンゆかりの丘にある「イタリアルネサンス研究センター」で、訃報を知りました。新しいテキストをもう読めない悲しみと、残された作品への懐かしさ、言葉の響きと面影をみなさんと共有する幸せを感じています。

『晩年様式集（イン・レイト・スタイル）』より

「小さなものらに、老人は答えない、
私は生き直すことができない。しかし
私らは生き直すことができる。」

2023年度 放送大学パートナーシップ講座

品川区共催 放送大学パートナーシップ講座 第1回

家康の決断 @関ヶ原

第1回は天下分け目の関ヶ原合戦について、大河ドラマで旬な家康側から解説していただきます。戦国の世に翻弄された満天姫と「津軽屏風」とは？関ヶ原合戦といったいどのように関わっているのでしょうか！？

【講師】放送大学東京渋谷学習センター所長/教授 山室 恭子 氏
東京工業大学名誉教授

【日時】令和5年6月10日(土) 14:00 - 16:00



【山室先生からの講演案内】

満天姫（まてひめ）をご存知でしょうか。家康の姪で遠く津軽家に嫁ぎました。

その姫の願いにより伝えられた「津軽屏風」を手がかりに、実は戦に弱かった家康が関ヶ原合戦をどうとらえていたかを読み解きます。



品川区共催 放送大学パートナーシップ講座 第2回

九州で発見された3本の有銘鉄刀

第2回は最近出土された有銘鉄刀について、解説していただきます。「甲子年五月中」とは製造年月日なのでしょうか？古代人が象嵌銘文太刀に込めた思い…古代ロマンへいざ入ります。

【講師】放送大学福岡学習センター客員教授 坂上 康俊 氏
九州大学名誉教授

【日時】令和5年6月17日(土) 14:00 - 16:00

【坂上先生からの講演案内】

九州で出土した銘文を持つ刀として、以前は熊本県和水町の江田船山古墳から出土した銀象嵌大刀のみが知られていたが、21世紀に入って福岡市の元岡遺跡から庚寅年銘金象嵌大刀が出土、そして最近熊本市で「甲子年五月中」と象嵌された大刀が出土した。日本古代国家の形成過程とのかかわりでそれぞれの有銘刀が持つ意義について考えてみたい。

【対象】品川区在住・在勤・在学者、放送大学所属学生等 16歳以上の方

【定員】100名（抽選）

【費用】無料 オンライン配信（Zoom）

【申込方法】品川区のホームページ（<https://www.city.shinagawa.tokyo.jp/>）より、
令和5年5月1日 以降に電子申請にてお申込みください。

※いただいた個人情報は、本講座のみに使用します。

【申込期間】令和5年5月1日(月) - 5月26日(金)



2022年度 放送大学連携講座 開催しました

品川区共催

放送大学パートナーシップ講座

第1回「新型コロナウイルス感染症」

【講師】放送大学教授 田城孝雄 氏

【日時】令和4年6月4日(土) 14:00 - 16:00

第2回「心はどこまで脳なのか」

【講師】東京都医学総合研究所副所長 糸川昌成 氏

【日時】令和4年6月11日(土) 14:00 - 16:00

オンライン配信 (Zoom)

第1回は、最もタイムリーな新型コロナのテーマをわかりやすく解説。withコロナに対応べく今後の在り方について考えました。質問も時間が足りなくなるほど多くの方からいただき、大盛況のうちに終了いたしました。(参加者:77名)

第2回は、精神科医でもある講師に心と脳について、具体例やエピソードを盛り込みながら解説していただきました。質疑応答にも丁寧にこたえていただき、大変好評でした。(参加者:81名)

2022年度 放送大学パートナーシップ講座
「オンライン開催」

第1回6月4日(土) 午後2時~4時

『新型コロナウイルス感染症』

講師:田城 孝雄 氏(放送大学教授)

ウイルス感染のしくみ、予防接種についてなど、新型コロナウイルス感染症について解説します。また、ウイズコロナ時代に、私たちが身に著けるべき「ヘルスリテラシー」今後の在り方についても考えます。

第2回6月11日(土) 午後2時~4時

『心はどこまで脳なのか』

講師:糸川 昌成 氏(東京都医学総合研究所 副所長)

ネットやメディアに氾濫する情報に触れていると、心は脳の働きであるかのように思えてきますが本当にそうでしょうか。演者は脳の研究に30年取り組んできた精神科医です。モノと心について考えをめぐらせながら、心と脳についてお話ししようと思います。

【対象・定員】16歳以上の方、100名(抽選) 【費用】無料

【申し込み方法】6月19日(木)までに、品川区のホームページ

(<http://www.city.shinagawa.tokyo.jp/>)またはQRコードを読み取り、電子申請にてお申込みください。

【優先・問い合わせ先】〒140-8715 品川区広町2-1-36 品川区文化観光生涯学習課 TEL 03-5742-6837 FAX 03-5742-6838

【注意事項】①Zoomのインストールや接続に関するお問い合わせは、サポートはいたしません。

②当日は最新の感染状況等について注意を促すため、Webカメラの接続が必須となります。

③Zoomの接続がうまくいかない場合は、品川区のホームページからお問い合わせください。

④Zoomの接続がうまくいかない場合は、品川区のホームページからお問い合わせください。

⑤Zoomの接続がうまくいかない場合は、品川区のホームページからお問い合わせください。

放送大学提携講座・太田区民大学

コロナ後の経済と生活の変化

第1回「サブスクリプション ～所有から利用へ、変わる消費のかたち～」

【学習支援者】放送大学特任教授 児玉晴男 氏

【日時】令和4年7月28日(木) 14:00 - 16:00

第2回「コロナ後の生活の変化 ～見えてきた孤立とひずみ～」

【学習支援者】消費生活アドバイザー 早野木の実 氏

【日時】令和4年7月30日(土) 14:00 - 16:00

【会場】カムカム新蒲田・オンライン配信 (Zoom) 同時開催

第1回は所有するのではなく、利用する権利を買う、サブスクリプションの仕組みと考え方について、専門的で詳細な内容を学びました。(参加者:18名)

第2回はデータに基づくトラブル事例の紹介していただき、コロナ禍で人に会えない生活の中で見えてきた問題を解決するために解説していただきました。(参加者:24名)

放送大学・目黒区教育委員会提携講座

北条義時を継ぐもの

— 鎌倉武士の兄弟関係 —

【講師】放送大学教授 近藤成一 氏

【日時】令和4年12月10日(土) 14:00 - 16:00

【会場】青少年プラザ・オンライン配信 (Zoom) 同時開催

昨年の大河ドラマと関連があるテーマで、北条義時の後継をめぐる泰時と正村の対立は、まさに大河ドラマのその後についての内容でした。

御成敗式目の条文について詳細な説明を交えながら、鎌倉時代の家族関係に焦点をあてた講義は大変わかりやすかったと参加者から好評でした。鎌倉時代の相続争いについて、何百年経っても人間は同じことをしている、という感想を多数いただきました。

たくさんの質問・疑問が参加者から寄せられ大盛況のうちに終了いたしました。

2023年度開催予定の放送大学連携講座も、どうぞ楽しみに！(参加者:63名)

放送大学・目黒区教育委員会提携講座

北条義時を継ぐもの
— 鎌倉武士の兄弟関係 —
講師 近藤 成一 氏
放送大学教授

【日時】令和4年12月10日(土) 14:00 - 16:00

【会場】青少年プラザ 目黒区民大学
(北条義時・武時・武敏) 約100名(先着)

【定員】20名(抽選)

【申し込み方法】6月19日(木)までに、品川区のホームページ(<http://www.city.shinagawa.tokyo.jp/>)またはQRコードを読み取り、電子申請にてお申込みください。

【優先・問い合わせ先】〒140-8715 品川区広町2-1-36 品川区文化観光生涯学習課 TEL 03-5742-6837 FAX 03-5742-6838

【注意事項】①Zoomのインストールや接続に関するお問い合わせは、サポートはいたしません。

②当日は最新の感染状況等について注意を促すため、Webカメラの接続が必須となります。

③Zoomの接続がうまくいかない場合は、品川区のホームページからお問い合わせください。

④Zoomの接続がうまくいかない場合は、品川区のホームページからお問い合わせください。

⑤Zoomの接続がうまくいかない場合は、品川区のホームページからお問い合わせください。